

2025 年度 内部質保証活動方針に基づく活動の総括

獨協大学 内部質保証推進委員会
委員長 前沢 浩子

獨協大学では毎年度、内部質保証推進委員会（以下、本委員会）が策定した年度方針に基づき内部質保証活動を推進している。本総括（自己点検・評価結果）は、「2025 年度内部質保証活動方針」に基づく内部質保証の活動総括である。

以下、年度方針に掲げた 4 つの大項目の他、本委員会の下に置かれる関連委員会の諸活動も踏まえ、「その他の活動」として総括した。

1. 学修者本位の教育の推進

学生にディプロマ・ポリシーへの理解を促すとともに、それぞれの学生が自らの学びの評価を主体的に認識できるよう、アセスメント制度の点検・改善を図る。また大学全体としての教育成果に関する情報発信を強化する。

2024 年度から、学生及び教職員にディプロマ・ポリシー（以下、DP）への理解を促すため、本委員会で「全学 DP（簡略版）」の策定を検討してきた。今年度、第 246 回全学教授会（2025 年 4 月 4 日）において「全学 DP（簡略版）」を制定した。「全学 DP（簡略版）」は、本学ホームページに掲載するとともに、学内掲示及び授業時間割表への掲載も行い、学生・教職員への周知を図った。

アセスメント制度の点検・改善の一環として、本学の教育成果等に関する情報を新たに「数字で知る獨協大学」と題して、本学ホームページに掲載し、情報発信を強化した。また、アセスメント見取り図（「獨協大学における学びの評価」）も同様に掲載した。

2. PDCA サイクルを通じた内部質保証活動の推進

各部局・委員会においては、「内部質保証チェックシート」を作成し、各々が設定する重点項目について計画管理を行い、内部質保証推進委員会で PDCA サイクルの有効性及び達成度を検証する。

第 193 回委員会（2025 年 4 月 15 日）において、各部局、委員会に対し「2025 年度内部質保証チェックシート」の作成を依頼し、PDCA サイクルの有効性及び達成度の把握を行うこととした。今年度も外部委員の意見に基づき、計画立案の際にルーティン業務ではなく、目標の数値化や具体化などに留意し、実質化を図ることとした。

第 195 回委員会（2025 年 7 月 15 日）で、各部局、委員会の「2025 年度の計画」を確認した。各部局、委員会ともに具体的かつ全学的な活動計画がより明確になり、内部質保証の

実質化が進んだ。

第 198 回委員会（2026 年 3 月 17 日）にて、PDCA サイクルの「活動結果」を検証した。本委員会の下、全学的にも、また各部局においても、PDCA サイクルが有効に機能しており、達成度も概ね高いことを確認できた。

3. 「改善報告書」の提出・対応

2025 年 7 月末までに「改善報告書」を大学基準協会に提出し、以降も改善に取り組む。2026 年 3 月に「改善報告書に対する検討結果」を受領し、その結果を受け、2026 年度以降の内部質保証活動に繋げる。

本学は、2021 年度第 3 期認証評価受審時において、4 件の改善課題が付された。

「改善報告書」の作成にあたっては、これまで本委員会を中心に対応してきた改善活動、改善結果等を集約した。2024 年度に「原案」を点検評価委員会、本委員会で承認した。定員管理の課題については、2025 年 5 月 1 日時点の大学基礎データの数値を「原案」に反映させ、点検評価委員会、本委員会、全学教授会で審議・承認を得て、2025 年 7 月に大学基準協会に「改善報告書」を提出した。

「改善報告書」提出以降は「2025 年度大学評価（認証評価）結果の指摘事項改善進捗状況一覧」を通じ、全学及び各部局単位で改善に取り組み、進捗状況を把握した。第 195 回委員会において、各部局の改善計画を確認し、計画の遂行を依頼した。第 198 回委員会において、今年度の改善進捗状況及び今後の課題を確認した。

2026 年度当初には、「改善報告書」及び「改善報告書検討結果」を本学ホームページで公表する予定である。改善が途上であると判断された事項があれば、次年度以降の内部質保証活動に繋げていく。

4. 認証評価に向けた準備

2028 年度受審予定の認証評価に向けて、大学として以下の準備を進める。

- ①2026 年度「認証評価委員会」設置に向け、準備を進める。
- ②認証評価における重要事項、主要な変更点などを学内で情報共有する。
- ③事務局自己点検・評価委員会（各部課室）を中心に、「基本情報一覧」を集約する。

10 項目の大学基準について、2025 年度時点での本学の課題点を抽出し、今後の改善に向けた準備を行う。

第 196 回委員会（2025 年 10 月 28 日）において、2026 年度から「認証評価委員会」を発足し、第 4 期認証評価への対応を本格化することを確認した。また、委員構成を再編し、さらなる実質化を図る観点から、認証評価委員会規程の一部改正も行った。

認証評価における重要事項等については、本委員会のみならず部局長会及び全学教授会

において、学長より適宜、情報発信がされた。また、事務局には、事務局自己点検・評価委員会、部課長会等を通じ、第4期認証評価に関する情報共有を随時、行った。

「基本情報一覧」（「点検・評価報告書」内の様式）については、事務局自己点検・評価委員会を中心に情報の集約を行い、今年度時点での本学の課題点を抽出した。集約結果を第196回委員会にて情報共有した。

引き続き、課題点の解消及び第4期認証評価に向けて、全学的に対応を進めていく。

その他の活動

・外部アセスメントテスト（GPS-Academic）について

学生の汎用的能力（特に全学 DP）の測定を目的とし、2024年度から3年生を対象に GPS-Academic を実施しており、今年度も4月から6月末にかけて実施した。学生は、受検結果から自身の学習成果の把握や自己分析ができ、就職活動等への活用が期待される。全体の受検結果の分析及び活用方法などについて、全専任教職員を対象に結果報告（オンデマンド配信）を行い、共有した。

・manaba ポートフォリオについて

学科ごとの DP 達成度の測定を目的として、manaba ポートフォリオを2024年9月から運用している。学生は、所属学科の DP 達成度を自身の成績に基づいたレーダーチャート形式で確認できる。教学課程委員会で全体や学部学科ごとの傾向を確認しているが、本委員会においても資料に基づき、集約結果を共有した。

・FD・SD 活動について

FD・SD 推進委員会を中心に、FD・SD 活動を推進し、年間で専任教職員参加率 80% 以上の数値目標を達成できた。各部局において、全学的又は部局単位での FD・SD 活動が複数実施された。全学的な FD・SD 活動の例としては、以下のとおりである。

<FD>

- ・「授業評価アンケートの自由記述に関する分析結果報告」（8月1日）
- ・グローバル人材育成プログラム検討部会主催 FD 講演会
「生成 AI を用いた英語教育のあり方」（10月14日）
- ・本委員会主催講演会「教育の質保証と大学経営」（1月14日）

<SD>

- ・「研究の不正防止及び公的研究費の適正運用に関する説明」（4月4日）
- ・「標的型攻撃メールに対する訓練」（8月）
- ・「大学生のメンタルヘルスに関する講演会」（10月29日）
- ・「2025年度障がいのある学生支援講演会」（11月5日）

また、同委員会において、2025年度 FD 活動方針を「教育の内容及び方法の深化を図る」

とし、同方針に基づく内容のFD活動が各学部・研究科で組織的に実施された。

・カリキュラムの点検・評価について

第194回委員会で、各学部に2024年度カリキュラムの運用状況等について、DP及びCPに基づく点検・評価を依頼し、第196回委員会で各学部から点検・評価結果の報告がなされた。各学部とも3つのポリシーに基づき、適切にカリキュラムが運用されていることを共有した。

・入学者選抜の点検・評価について

第196回委員会で、2025年度入学者選抜の点検・評価結果について入試部より報告があり、本学のアドミッションポリシーに基づき、入学者選抜が適切になされていることを確認した。

・各種アンケートについて

全学生を対象に「授業評価アンケート」を各学期の授業終了時に実施した。自由記述箇所については、テキストマイニングによる傾向分析結果を点検評価委員会で検証し、全専任教員を対象に報告を行い、FD活動の一環に繋げた。また、全体の集計結果及び傾向を点検評価委員会、本委員会で共有し、個別の集計結果は学部学科等にフィードバックした。なお、点検評価委員会にて、授業到達目標の達成度の観点から、設問の一部見直しを行い、2026年度から変更予定である。

2024年度末に実施した「教育環境改善アンケート」における学生からの要望については、事務局自己点検・評価委員会を中心に改善計画を策定したうえで、改善に取り組み、結果対応をとりまとめた。また、「学年修了時アンケート」及び「卒業時アンケート」についても点検評価委員会、本委員会において集約結果及び分析結果に基づき、本学の学習成果、学習行動の傾向、課題などを共有した。

・「在学生の声を聴く会」等の意見反映について

2025年1月に学生参画の観点に基づき、「在学生の声を聴く会」を開催し、在学生と本委員会委員とで多様な意見交換を行った。改善の取り組みの一例として、教務部では履修登録取消制度の検討及び運用に向けて対応を進めるなど、「在学生の声を聴く会」での学生の意見を踏まえた改善が行われた。

また、2025年2月に開催した「卒業生の声を聴く会」での卒業生の意見を踏まえ、今年度、国際化推進委員会において、「獨協大学国際化推進ビジョン（2025～2040年）」策定の際に、より能動的な姿勢を打ち出すこととした（第247回全学教授会報告）。

以 上